様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２３７１

研究課題名（和文）現代インドネシアの宗教間対話と政教関係

研究課題名（英文）Interfaith Dialogue and Relations between Politics and Religion in Contemporary Indonesia

研究代表者
北村　由美（Kitamura, Yumi）

京都大学・附属図書館・准教授

研究者番号：７０３３５２１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、世界最大のイスラーム人口をかかえながらも多宗教国家であるインドネシアを対象として、宗教間対話の歴史的潮流と現状を、同国の政教関係に照らし合わせながら明らかにすることである。具体的には、第二次世界大戦後のインドネシアにおけるスハルト大統領による権威主義体制期（1967年～1998年）と民主化後（1998年～）対象とし、（１）時代ごと、宗教ごとの政教関係の調査・分析を軸としつつ、（２）フィールドワークによる一般の信徒の宗教実践と宗教理解の調査・分析、（３）小説やポップカルチャー見られる各宗教の表象とその影響の調査・分析を中心に研究を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的・社会的意義は、独立後のインドネシアを対象に1960年代以降の政教関係と宗教間対話について、政治家や宗教指導者による言説のみならず、ポップカルチャーにおける宗教の表象、一般の信徒の言動や実践など様々な場を通して検討したことによって、動的・立体的なインドネシア宗教の現在を提示したことである。日イ関係がますます重要となる現在、インドネシア社会において重要な要素である宗教についての立体的な理解は、学術のみならずビジネスや教育の場にも還元できる成果だといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the historical trends and current status of interreligious dialogue in Indonesia, a multi-religious country with the world's largest Islamic population, in the context of the country's political and religious relations. Specifically, the project covered two periods such as the authoritarian regime of President Suharto after the World War II (1967-1998) and the post-democratization period (1998-) in Indonesia and conducted following research: (1) surveying and analyzing the political and religious relations of each period and religion, (2) surveying and analyzing the religious practices and religious understanding of the general public through fieldwork, and (3) research and analysis of representations and influences of each religion in novels and pop culture.

研究分野：東南アジア地域研究

キーワード：インドネシア　宗教間対話　イスラーム　キリスト教

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究はインドネシアの宗教・社会を研究してきたメンバーらが、近年のインドネシアにおいて宗教に起因する社会の分断や軋轢が増えていることに対する問題意識を共有したことから構想された。例えば2016年1月には、高等教育大臣がインドネシア大学内で性的マイノリティ支援を行う学生団体の活動を禁止する発言をしたことが呼び水となり、宗教的モラルを根拠に性的少数者を排除する政治家や宗教家の発言が続き、社会全体がモラルパニックにおちいっていった。民主化以降進められてきた性的少数者を含む社会における少数派の権利獲得のプロセスが、宗教の名の下に逆風にさらされる状況が目の当たりにされた。さらに、2018年5月にはジャカルタの国家警察機動隊本部内でIS（イスラーム国）関係者が立てこもる事件や、IS系過激派組織ジャマア・アンシャルット・ダウラ（ＪＡＤ）関係者が、インドネシア第二の都市スラバヤのキリスト教会三か所で自爆テロを起こすなど、日本でも報道された事件が相次いだ。このような大規模な事件が起こると、国民の約9割を占めるイスラームと、キリスト教をはじめとする少数派の人々の相互に対する感情も影響を受け、人々の日常生活においても小さな軋轢が増えたり、分断が進んだりすることが、研究メンバーらの現地調査でも観察されていた。

先行研究では、インドネシアの1998年の民主化以降、イスラームの「保守化」の傾向が強まっているとされ、少数派や異質なものに対する排除や抑圧が目立つ点が指摘されてきた（Bruinessen, Martin Van ed. 2013）。別の観点からみると、インドネシアのイスラーム研究が20世紀後半のスハルト権威主義体制から現代に至る政教関係を説明してきた、「市民的イスラーム」（Hefner 2000;2019）と「イスラーム主義」（Platzdash 2009; Hilmy 2010）という異なる二つの特性のうち、後者がより顕著に現れてきたとも考えられる。両者は具体的には、「市民的イスラーム」がイスラーム国家樹立を否定し、女性の権利や多元主義、民主主義の用語、宗教的寛容を強調する言説であるのに対し、「イスラーム主義」は、イスラーム政治勢力の台頭を強調している言説である。

一方で植民地体制から現代までを俯瞰する形で、インドネシアにおける宗教間・民族間の軋轢と紛争を分析したサイデル（Sidel 2006）は、インドネシアのイスラームは存在論的課題を内在していると指摘している。サイデルは、オランダ植民地期にマジョリティでありながらも、キリスト教徒でないために周縁化されたムスリムが、民主化された現代にいたるまで、ナショナル・アイデンティティを確立できていないことが、インドネシアにおける様々な形態の暴力や紛争の根源にあると指摘する。植民地のキリスト教との対比において周縁化されたことに加えて、中東というイスラームの主流の対比においても周縁化されていることが、インドネシアにおけるイスラームがかかえるスティグマであるという。

本研究ではこれらの先行研究を参照の上で、マイノリティ宗教からの視点をとりいれつつ、宗教に起因する分断や対立を回避するための対話の構造に焦点をあてた。現代インドネシアを事例に、宗教による安定と平和への貢献はどのように実現できるのかというのが、本研究を構想した際の「問い」であった。神学上も宗教実践上も、多くの場合、宗教は、個人と社会の安定と平和を目的としている。しかし、現代世界では不可逆的なグローバル化が進み、人や資本の移動が複雑化すると同時に文化・宗教・思想が国民国家の版図を超えて共有されることによって、国際的なテロがおこったり、国民国家内におけるマジョリティの保守化がすすんだり、マイノリティへの暴力へと転化する要因にもなっている（アパデュライ 2004）。インドネシアも例外ではない。その一方で、インドネシアの場合は、宗教による安定と平和の実現を模索する動きが、マジョリティ・マイノリティの双方向から提示され続けており、その時代ごとに政治的・社会的文脈に適応した言説を生み出している。本研究では、現代インドネシアを事例に、言説分析とフィールドワークから「問い」の実証を試みた。

２．研究の目的

本研究の目的は、1967年から1998年のスハルト大統領下における権威主義体制期と、1998年の民主化以降の双方において、インドネシアにおける宗教間対話と政教関係を明らかにすることである。研究期間中は、特に以下の点に焦点をあてた。

（１）　これまで多数派であるイスラームに注目し、どちらかというと対立の構造が強調されてきた、従来のインドネシアの政教関係を対象とした研究に対して、多宗教・少数派の視点を取り入れることにより、草の根レベルで綿々と受け継がれてきた対話の構造を可視化する。

（２）　宗教に関する言説や表彰を、国家言説や宗教者と知識人だけでなく、一般の人々の日々の言動、小説やポップカルチャーにおける表象など、複数の位相から整理し、それぞれの関係性を検討する。

３．研究の方法

本研究では、上記の目的達成のために、以下の5つの研究項目を設定した。対象時期は、スハルト政権の成立につながった、1965年のスハルトによる共産勢力の粛清（９・３０事件）によって1967年に成立したスハルト体制期、そして1998年にスハルト体制が崩壊した後の民主化後のインドネシアとした。また、主な研究対象はイスラームに加え、キリスト教のカトリックとプロテスタントとした。

以下の（1）と（2）は文献を中心に行い（３）以下は文献調査と現地調査を行った。ただし、現地調査に関しては、新型コロナウィルスによるパンデミックのため、研究期間中のインドネシア渡航が大幅に制約されたため、当初予定していた範囲での調査が行えなかった。

（１）1965年以降のインドネシアにおける、宗教間対立の詳細な背景と文脈を整理
（２）1965年から現在までの宗教評議会、活動家、宗教関係の知識人、宗教大臣が発信してきた安定と平和をめぐる言説の整理
（３）宗教的背景が違ういくつかのコミュニティにおける宗教間対話の実践の調査
（４）小説やポップカルチャーにおける宗教の表象の分析と、それらの受け止められ方に関する現地調査
（５）中東のイスラーム言説がインドネシアの宗教間対話へどのような影響を与えているかを検証

４．研究成果

主な研究成果は以下のとおりである。

(1) 宗教による安定と平和の実現を希求する実例を知識人の言説や小説の分析から提示

① スハルト体制期の代表的なイスラーム知識人であるヌルホリス・マジッドや、アブドゥルラフマン・ワヒドなどの思想を検討し、彼らが西洋や中東の思想を参照しつつインドネシア独自の思想を発展させており、現代の宗教間対話に有効であることを明らかにした。ただし、ヌルホリス・マジッドの思想に関しては、現代に十分継承されておらず、再度共有される必要があることが確認された。

対応する主要業績：
佐々木拓雄. (2022). 「ヌルホリス・マジッド『イスラーム思想革新の責務とウンマの統合の問題』（1970 年）」. 『久留米大学法学』, *86* : 1-24.

佐々木拓雄. (2023). 「翻訳「アブドゥルラフマン・ワヒド『宗教―国家関係の型をもとめて』」（1998 年）および『イスラームと 民族社会』（1989 年）」*88*:1-24

佐々木拓雄. (2021). 「イスラームの宗教多元主義--アジア共同体のための一試論」. 児玉昌己・伊佐淳(編), 『グローバル時代のアジアの国際協力--過去・現在・未来』(pp. 273-295). 芦書房.

② 女性作家フェビー・インディラニやヘルフィ・ティアナ・ロサらの短編小説のテキスト分析や、小説が書かれた社会的背景およびその影響の分析を通じて、インドネシアのイスラームの「保守化」に対する危機感が、現代的・寓話的なストーリーに反映されていること、こうした小説がインドネシア社会に対し少なからぬインパクトを与えていることを確認し、ポップカルチャーを通じた宗教間対話への呼びかけの具体例として提示した。また、国際交流基金との共催で作家フェビー・インディラニへのインタビューを実施、同基金のウェブ上でこのインタビューを公開して、インドネシアの宗教や社会に関わる文学の役割や社会が抱える課題について、広く日本社会に対して発信した。

対応する主要業績：
オンライン・アジアセンター寺子屋第8回「マジカル・イスラーム　～作家が語るインドネシアの社会と宗教」.（2021）. 国際交流基金アジアセンター.
https://asiawa.jpf.go.jp/culture/features/f-ah-online-ac-terakoya-2021-1/

野中葉. (2023). 「小説が描く現代インドネシアのムスリム社会―フェビー・インディラニ『処女でないマリア』を題材に」. 宮代康丈・山本薫 (編),『言語文化とコミュニケーション（シリーズ　総合政策学をひらく）』(pp. 199-217). 慶應義塾大学出版

会.

野中葉. (2024). 「「《マジカル・イスラーム》と現代インドネシアのムスリム社会―フェビー・インディラニが描く危機感と希望」. ワタン研究プロジェクト (編),『東南アジアのムスリム文学』(pp. 59-107). ワタン研究プロジェクト.

③ ①と②のうち、特に重要なテキストに関しては日本語に翻訳して紹介した。

(2) 日々の生活における宗教実践と宗教間対話の地域差や SNS などによる変化を実証

① ムスリムがマジョリティであるジャワとキリスト教徒がマジョリティである東インドネシアでの現地調査を通し、国レベルの言説がジャワでの実態をもとに形成されており、地域差が反映されていないことを明らかにした。

② 2016 年以降に顕著になった性的少数者を宗教的モラルに基づいて「更生」しようという全国的な動きに対して、イスラームとイスラーム以外の公認宗教の全国団体が同調した。そのような中、公認宗教のうちプロテスタント教会の全国団体のみが教会における性的少数者の包摂を呼びかける方針を出した。このような方針が策定される拝啓には、2000 年以降、インドネシアにおけるプロテスタント教会の一部の宗教者らが宗教的な性的少数者の受容に向けて、神学教育や実践を行ってきたことがある。このようなキリスト教の牧師らは、他の宗教の実践者であっても性的少数者の社会的・宗教的受容に向けた活動を行う人々とも連携し、宗教の違いを超えて活動を展開しいった。この事例からは、宗教間対話が必ずしも神学論議ではなく、社会の課題に対処していく中で生じることが明らかになった。

対応する主要業績：
北村由美. (2021). 「教会にかかる虹－インドネシアキリスト教会と性的少数者」. 日下渉他(編),『東南アジアと「LGBT」の政治』(pp. 324-326). 明石書店.

③ インドネシアでは SNS を通じた過激思想の拡散が問題になっている一方で、イスラームにおける重要な宗教実践である「喜捨（ザカート）」も SNS 上の電子マネーなどで拡大している事実を明らかにし、コミュニケーション・ツールの多様化が宗教実践に及ぼす変化を検証することの重要性を示した。

対応する主要業績：
Adachi, M.(2024, February 27). *A Study of Riyā' and Taqwā in Cyberspace Posts: An Analysis of Twitter(X) Big Data Regarding Zakat in Indonesia* [Conference presentation]. 5th International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development: Islamic Welfare Activities in the Era of Digital Transformation: Exploring the Latest Innovations on Zakat and Waqf in Asia, Osaka, Japan.

科研期間を通し、1960年代以降のインドネシアにおける政教関係、政教関係、一般信徒の実践を様々な位相において検討した。イスラームの保守化による社会の分断というこれまでの先行研究が示した分析を越え、地域性、階層、世代、文化実践、SNSなどの影響を包括的に検討する宗教研究が今後の課題である。

＜引用文献＞

アパデュライ, アルジュン. (2004) 『さまよえる近代――グローバル化の文化研究』. 門田健一訳, 平凡社.

Bruinessen, M. V. ed.（2013）. *Contemporary developments in Indonesian Islam : explaining the "conservative turn."* Institute of Southeast Asian Studies.

Hefner, R. (2010). *Civil Islam : Muslims and democratization in Indonesia.* Princeton University Press.

Hefner, R. (2019). Muslims, Catholics, and the Secular State: Alt-Right Populism and the Politics of Citizen Recognition in France. *American Journal of Islamic Social Science 36*(3): 1-22.

Sidel, J. (2006). *Riots, pogroms, jihad : religious violence in Indonesia*. Cornell University Press.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　10件）

１．著者名 足立真理	４．巻 1
２．論文標題 「格差是正の処方箋――定めの喜捨ザカートの発展（28章）」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 尾哲夫・東長靖編『中東・イスラーム世界への30の扉』ミネルヴァ書房	６．最初と最後の頁 318-328
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Adachi Mari	４．巻 1
２．論文標題 The Rapidly Rising Trajectory of Digital Zakat Payment in Pandemic Indonesia (A Case of the Collaboration Between BAZNAS and the GoPay)	５．発行年 2022年
３．雑誌名 3rd Annual Management Business and Economics Conference Proceeding	６．最初と最後の頁 269-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 足立真理	４．巻 1
２．論文標題 「喜捨：インドネシアにおけるザカートの変容」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 ①久志本裕子・野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための61章』（明石書店）	６．最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐々木拓雄	４．巻 1
２．論文標題 「イスラームの宗教多元主義--アジア共同体のための一試論」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 児玉昌己・伊佐淳編『グローバル時代のアジアの国際協力--過去・現在・未来』芦書房	６．最初と最後の頁 273-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木拓雄	4．巻 83
2．論文標題 「インドネシア社会における寛容と不寛容についての覚書き」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『久留米大学法学』	6．最初と最後の頁 19-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐々木拓雄	4．巻 86
2．論文標題 「ヌルホリス・マジッド『イスラーム思想革新の責務とウンマの統合の問題』（1970年）」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『久留米大学法学』	6．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐々木拓雄	4．巻 85
2．論文標題 「翻訳と解説：スカルノ「わたしはそれほどダイナミックではない」（『パンジ・イスラーム』第29号、1940年）」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『久留米大学法学』	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐々木拓雄	4．巻 88
2．論文標題 翻訳「アブドゥルラフマン・ワヒド『宗教－国家関係の型をもとめて』（1998年）および『イスラームと民族社会』（1989年）」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『久留米大学法学』	6．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nonaka Yo	4．巻 49
2．論文標題 Practising Sunnah for reward of heaven in the afterlife	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Indonesia and the Malay World	6．最初と最後の頁 429～447
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13639811.2021.1952018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 219
2．論文標題 「日本に暮らすムスリムと大学生たちの協働―大塚モスクにおけるフードドライブの実践」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『Mネット』	6．最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 71
2．論文標題 「コロナ禍のインドネシア―岐路に立つ家族計画プログラム」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『LIBRA』	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1253
2．論文標題 「コロナと相互扶助」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『三田評論』	6．最初と最後の頁 83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「フェビー・インディラニ著「イスラーム教徒になりたいベイビ」「処女でないマリア」：翻訳と解説」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 岡真理編『中東現代文学選2021』中東現代文学研究会	6．最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「ヘルフィ・ティアナ・ロサ著「赤い網」：翻訳と解説」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 岡真理編『中東現代文学選2021』中東現代文学研究会	6．最初と最後の頁 123-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「アズハリ・アイユーブ著「疫病とドリアン」：翻訳」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『アジア文芸プロジェクト“Yomu”Indonesia』国際交流基金ジャカルタ日本文化センター	6．最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yo Nonaka	4．巻 1
2．論文標題 “Pursuit of Decent and Natural Beauty in Accordance with Islamic Norms: The Boom of Halal Cosmetics in Indonesia”	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Goto, Emi and Chika Obiya, eds. Created and Contested: Norms, Traditions, and Values in Contemporary Asian Fashion, ILCAA	6．最初と最後の頁 93-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「宗教と衣服」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 蘆田裕史・藤嶋陽子・宮脇千絵『クリティカル・ワード　ファッションスタディーズ：私と社会と衣服の関係』フィルムアート社	6．最初と最後の頁 149-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 5
2．論文標題 「インドネシア　変身する女性と社会―近年のチャダル着用現象を事例に」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 長沢栄治監修、岡真理・後藤絵美編『記憶と記録にみる女性たちと百年　イスラーム・ジェンダー・スタディーズ』（明石書店）	6．最初と最後の頁 240-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 5
2．論文標題 「大学モスクの女性活動家の先駆者」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 長沢栄治監修、岡真理・後藤絵美編『記憶と記録にみる女性たちと百年　イスラーム・ジェンダー・スタディーズ』（明石書店）	6．最初と最後の頁 131-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「小説が描く現代インドネシアのムスリム社会―フェビー・インディラニ『処女でないマリア』を題材に」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 宮代康丈・山本薫編『言語文化とコミュニケーション（シリーズ　総合政策学をひらく）』（慶應義塾大学出版会）	6．最初と最後の頁 199-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「ムスリマのヴェールをめぐる議論と実践―インドネシアを事例に」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 神保謙・廣瀬陽子編『流動する世界秩序とグローバルガバナンス（シリーズ　総合政策学を >ひらく）』（慶應義塾大学出版会）	6．最初と最後の頁 193-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 《憧れ》を喚起し醸成する装置　－オランダ領東インド初の現地語女性誌『プトリ・ヒンディア』」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 山口みどり・中野嘉子編著『憧れの感情史』作品社	6．最初と最後の頁 95-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 9
2．論文標題 「インドネシアにおける公認諸宗教の伝来と受容」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『月刊インドネシア』	6．最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野中葉	4．巻 1
2．論文標題 「《マジカル・イスラーム》と現代インドネシアのムスリム社会―フェビー・インディラニが描く危機感と希望」	5．発行年 2024年
3．雑誌名 ワタン研究プロジェクト編『東南アジアのムスリム文学』	6．最初と最後の頁 59-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sawazaki, Kenichi, Kae Amo, Yo Nonaka, Shuta Shinmyo, Mamoru Hasegawa, Ahmed Alian, and Yunus Ertugrul	4．巻 5
2．論文標題 Emergent Use of Visual Media in Young Muslim Studies	5．発行年 2024年
3．雑誌名 Trajectoria	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51002/trajectoria_024_02	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 北村由美	4．巻 1
2．論文標題 「教会にかかる虹－インドネシアキリスト教会と性的少数者」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日下渉他編著『東南アジアと「LGBT」の政治』明石書店	6．最初と最後の頁 324-326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村由美	4．巻 1
2．論文標題 「インドネシアにおけるキリスト教」	5．発行年 2024年
3．雑誌名 『月間インドネシア』	6．最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　7件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 足立真理
2．発表標題 「現代インドネシアにおけるザカートの再構築：イスラームにおける制度化、デジタル化、新自由主義による影響をめぐって」
3．学会等名 日本中東学会第38回年次大会
4．発表年 2022年

１．発表者名 Mari Adachi
２．発表標題 “Digital Zakat Payment in Indonesia under the Pandemic: A Preliminary Discussion”
３．学会等名 The 31st AJI Frontier Seminar (Online, May 11, 2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Mari Adachi
２．発表標題 The Rapid Trajectory of Digital Zakat Payment in Indonesia under the Pandemic: Case of the collaboration between BAZNAS and GoPay”
３．学会等名 The 3rd Annual Management Business and Economics Conference 2021 (Online, May 11, 2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 足立真理
２．発表標題 「コロナ禍におけるイスラーム型困窮者救済のデジタル化と納付の簡便化：インドネシアのザカート管理庁とGo-Payとの協働事例」
３．学会等名 東南アジア学会オンライン例会（2021年6月26日）
４．発表年 2021年

１．発表者名 足立真理
２．発表標題 「インドネシアにおけるザカート（喜捨）のデジタル化とその課題」
３．学会等名 東南アジア学会第103回研究大会（オンライン，2021年12月4日）
４．発表年 2021年

１．発表者名 足立真理
２．発表標題 「インドネシアにおけるザカート（イスラーム的喜捨）制度の発展とその課題―コロナ禍でのデジタル化事例を中心に―」
３．学会等名 日本インドネシア協会（zoomウェビナー，2021年10月22日）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Mari Adachi
２．発表標題 “A Study of Riya and Taqwa in Cyberspace Posts: An Analysis of Twitter(X) Big Data Regarding Zakat in Indonesia”
３．学会等名 5th International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 野中葉
２．発表標題 「マジカル・イスラーム～作家が語るインドネシアの社会と宗教～」
３．学会等名 オンライン・アジアセンター寺子屋第8回（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 野中葉
２．発表標題 「インドネシアのハラール化粧品」
３．学会等名 横浜市立大学ジェンダー研究会「イスラーム世界の女性たちと日々の生活：結婚・装い・美容」（オンライン，2021年12月26日）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 「信仰と衣服：神のために装う意味（Faith dan Dress: Makna pakaian demi Tuhan）」
３．学会等名 International Symposium: “Muslim Fashion in Global Era”, by Islamic Fashion Institute and Departement of Syariah Ekonomy and Finance, Bank of Indonesia (Online, October 13, 2021)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 The Halal Cosmetics Boom in the Modern Muslim Society of Indonesia
３．学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (Online, Augst 28, 2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 「日本におけるハラール研究（Studi Halal di Jepang）」
３．学会等名 International Conference, Halal Research Center, Bandung Institute of Technology: “Riset Halal sebagai Pendukung Pemulihan Ekonomi Nasional dan Dunia” (Online, July 3, 2021)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 Putri Hindia: The First Melayu-language Women’s Magazine in the Dutch East Indies", presented in the Panel: Mediating New Versions of Womanhood in Asia 1880s-1950s
３．学会等名 AAS-in-Asia (online)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 “Relax, It's Just Politics: Politics in Chill, Presumptions are Testy”
３．学会等名 Madani International Film Festival（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yo Nonaka
２．発表標題 "Young Muslim's Eyes”
３．学会等名 Madani International Film Festival（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 足立真理
２．発表標題 「現代インドネシアにおけるザカート制度化の沿革―準市場化に向けた競合・協働事例の検討」
３．学会等名 日本中東学会第36回年次大会(オンライン開催: zoom第7部会MR7-2)
４．発表年 2020年

１．発表者名 足立真理
２．発表標題 「収入ザカート概念の発展:インドネシアとマレーシアの比較に向けた考察」
３．学会等名 京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）三班合同研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Mari Adachi
２．発表標題 The New Interpretation of Zakat (Islamic Almsgiving) Usage in Urban Area of Indonesia: Beyond Pious Neoliberal Perspectives
３．学会等名 KASEAS-CSEAS Joint Conference 2020‘Connectivity and Transformation in Southeast Asia’（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yumi Kitamura
２．発表標題 Tionghoa Katolik: Dulu dan Kini
３．学会等名 Serial Webinar NggosipinTionghoa Yuk!（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計3件

１．著者名 Yumi Kitamura, Alan H Yang, Ju Lan Thung (eds.)	４．発行年 2022年
２．出版社 World Scientific	５．総ページ数 386
３．書名 When East Asia meets Southeast Asia : presence and connectedness in transformation revisited	

１．著者名 久志本裕子・野中葉編	４．発行年 2023年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 404
３．書名 東南アジアのイスラームを知るための64章	

１．著者名 Mari Adachi, Nur Indah Riwajanti	４．発行年 2021年
２．出版社 Kyoto University Islamic Economic Studies Project (KUISES)	５．総ページ数 80
３．書名 Perkembangan Praktek Zakat Kontemporer di Asia Tenggara	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐々木　拓雄 (Sasaki Takuo) (10461469)	久留米大学・法学部・教授 (37104)	
研究分担者	足立　真理 (Adachi Mari) (10848675)	立命館大学・衣笠総合研究機構・特別研究員（PD） (34315)	
研究分担者	野中　葉 (Nonaka Yo) (70648691)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・准教授 (32612)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	蓮池　隆弘 (Hasuike Takahiro)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関